

# 「友松」の変遷 I

## ▽「友松会」の発足

「本會々員ハ皆曾テ縣校ニアリ朝夕松樹ヲ友トシ同窓ニ苦學セシヲ記センガ爲メ之ヲ神奈川縣友松會ト名ヅク」

これは、友松会発足当時の規則、第二条に記されているものである。本會が、「友松会」と呼ばれるようになったのは、ここに始まる。

### 神奈川縣友松會第二回報告

友松会発足  
時は、「神奈川  
県友松会報告」  
という冊子で  
総会の報告等  
をしていた。

この「友松会報告」は、二号まで出ている。

ルノ大主意ナリ若シ果シテ此ニ據リ我教育上ノ改進黨益シ且諸君ト生等トノ交遊ヲ増ムルヲ得ハ是ニ於テ學生等ノ微意亦盡ルト云

明治廿一年一月

#### 神奈川縣友松會規則

- 第一條 本會ノ目的ハ會員相協同シ相諮詢シ以テ交遊ヲ親密ニ品格ヲ保持シ教育ノ進歩ヲ謀ルニアリ
- 第二條 本會々員ハ皆曾テ縣校ニアリ朝夕松樹ヲ友トシ同窓ニ苦學セシヲ記センガ爲メ之ヲ神奈川縣友松會ト名ヅク
- 第三條 本會々員ハ神奈川縣師範學校卒業者ヲ以テ組織ス
- 第四條 神奈川縣師範學校ニ關係セル諸氏ヲ乞フテ客員トスルコトアリ

第五條 本會ハ幹事長一名幹事五名委員若干名ヲ置キ事務ヲ負擔セ

第六條 幹事長及幹事ハ會員中ヨリ推舉シ其任期ヲ各一ケ年トス

但シ再選スルヲ得ル

第七條 委員ハ各地方ニ於テ幹事長之ヲ屬托ス

第八條 幹事長ハ本會ノ事務ヲ總理シ幹事ハ幹事長ヲ輔佐シ本會ノ事務ヲ執行シ委員ハ該地方ニ於テ其事務ヲ負擔ス

第九條 本會ハ事務所ヲ野毛町四丁目百八十三番地小清水金藏宅内ニ假設ス

第十條 本會ヘ入會セント欲スル者ハ住所職業ヲ詳記シ其旨ヲ幹事

長ニ通知スル

第十一條 會員ハ本會ノ經費ヲ支ユル爲メ一會期内即チ六ケ月毎ニ

金拾銀ヲ贈出スベシ

但レ非常ノ入員ハ臨時徵集スルコトアルベシ

第十二條 本會ハ毎年二回總集會ヲ開キ又便宜地方會ヲ開クコトアル

但レ總集會場及時日ハ每會之ヲ報スベシ

第十三條 總集會場ハ横濱入王子厚木ノ三ヶ所トス

但レ毎年一回ハ横濱ニ於テ神奈川縣教育會ノ總集會前後適宜ノ

時日ヲ以テ開會ス

第十四條 總集會及地方會開會ノ節ハ會員ノ談話討論演說或ハ議事

等ヲ爲シ又ハ會員ノ演說ヲ乞フコトアルベシ

第十五條 會員ハ會員ノ休戚ニ關シ應分ノ力ヲ盡スベシ

第十六條 會員ハ本會ニ利益アリト認ムル事項ヲ幹事長ニ報告レ幹

事長ハ之ヲ各會員ニ報告スベシ

第十七條 會員身上ノ異動ハ直ニ之ヲ幹事長ニ報告スベシ

第十八條 會員中本會ノ名譽ヲ汚ス者アルハ互ニ忠告シ尙従ハザ

ルトアルハ衆議ノ上退會セシムルコトアルベシ

第十九條 本會幹事ハ每會期報告書ヲ編製シ本會ニ關スル總テノ事

項ヲ記載シ會員ニ配布スベシ

第二十條 本會幹事ハ會員姓名籍貫等ヲ記載シテハ帳簿ヲ製シテ之

ヲ保存スベシ

第二十一條 本會規則ハ五名以上ノ同意者アルハ本會同ノ節之ヲ衆議

ニ附シ改正増補スルヲ得ル

○第一回總集會 明治二十一年五月六日愛甲郡厚木學校ニ開ク茶會

明治廿一年一月

〔友松会最初の規則・「友松会報告一号」より〕

「創立趣意書」と「友松会規則」には、明治二十一年一月と記されている。規則にみられるように、漢字とカタカナで書かれていて、内容的に重厚なもので、明治の時代背景をうかがうことが出来る。

### ▽「友松」の創刊

非賣品 明治廿三年十月

目次

本會報告

役員會

會務報告

會務報告

會務報告

會務報告

會務報告

會務報告

會務報告

會務報告

會務報告

會務報告

會務報告

會務報告

會務報告

會務報告

會務報告

會務報告

會務報告

會務報告

會務報告

會務報告

會務報告

會務報告

# 神奈川縣友松會通信

第一

「友松」の創刊第一号は、明治23年に発刊された。名称は、「神奈川県友松会通信」となっている。

總集會、地方會、役員會、會員異動、演說、論說、雜報、





## ▽ 母校沿革概要

一八七四年(明治七年)	県四中学校区に教員養成所設置
一八七五年(明治八年)	師範学校と改名
一八七六年(明治九年)	四校を合併し横浜師範学校と改称
一八七九年(明治十二年)	神奈川県師範学校(横浜・老松町)と改称
一八八一年(明治二〇年)	神奈川県尋常師範学校と改称
一八八八年(明治二十二年)	神奈川県「友松会」創立
一八九〇年(明治二十三年)	「友松」第一号発刊
一八九二年(明治二十五年)	鎌倉(雪ノ下)に移転
一八九八年(明治三一年)	神奈川県師範学校と改称
一九〇七年(明治四〇年)	神奈川県女子師範学校設置(岡野町)
一九二三年(大正一二年)	関東大震災、両校共校舎倒壊
一九二五年(大正一四年)	師範学校本校竣工
一九二六年(大正一五年)	師範学校創立五十周年
一九二七年(昭和二年)	女子師範校舎竣工
一九二八年(昭和三年)	師範学校創立五十周年式典
一九三二年(昭和七年)	友松会館落成
一九三六年(昭和一一年)	師範学校創立六十周年

一九三六年(昭和一一年)	創立六十周年記念誌発行
一九四三年(昭和一八年)	神奈川県師範学校(男子部、女子部)
一九四五年(昭和二〇年)	横浜大空襲、女子部校舎一部焼失
一九四九年(昭和二四年)	神奈川県師範学校は、横浜国立大学に包括
一九五一年(昭和二六年)	横浜国立大学学芸学部として設置
一九六五年(昭和四〇年)	神奈川県師範学校廃止
一九六六年(昭和四一年)	鎌倉校舎焼失
一九七四年(昭和四九年)	学芸学部を教育学部に名称変更
一九八八年(昭和六三年)	教育学部常盤台に移転
二〇〇八年(平成二〇年)	友松会創立百周年 百周年記念誌 友松会創立百二十周年

「友松」の発刊当時のものを読んでみると、昔の教育事情や時代背景を理解することが出来る。

特に、「友松会館」の建設に着手したことは、大事業であった。昭和初期に、建設予算が壱万円というから、いかに大規模な計画であったかが想像できる。しかも、基金は、積立金と寄付金であった。

※ 総工費 一四、六一五円六六銭

# ▽母校創立五十周年

本来は、五十周年は一九二六年であったが、校舎改築をしていたため、校舎落成と創立五十周年を兼ねて延期して実施したことが、記事に書かれている。

掲載されているものを読むと、当時も、母校と友松会は連携が強く、会員が、母校に協力していることが伺える。事業は、二日間にわたり、落成式、創立記念式、謝恩会、午餐会、友松会総会、温旧会、記念学芸会、記念音楽会、祝賀夜会と盛り沢山のことがおこなわれている。



## 創立五十周年記念事業に就いて

明治九年六月十八日創設に係る母校は、島根県松江に於て、明治、期、大正と進歩したる特殊な歴史を、母校に於て多岐に亘り、我が邦に於ては、或は教育界に特異な功績を挙げ以て奉仕致したる偉大な人物を顕彰する時、感概無き切なるを業光とせらるべき也。

昨年既に創立五十周年に該当するものでありしが、工部局改築工事等中であり、明年初に創立五十周年記念式並びに祝賀会を挙げることに延期されたのであります。

我が友松会は、本年三月五日臨時委員及び五月十九日定期委員を開き、此の案を記念式、祝賀会と改め協力を以て、下記の事業を進行することと議決しました。

### 幹事金子 子 馨

- 一、期 第一期三月五日の目的の實現
- 第二期三月廿五日の目的の實現
- 第三期三月廿五日の目的の實現
- 第四期三月廿五日の目的の實現
- 第五期三月廿五日の目的の實現
- 第六期三月廿五日の目的の實現
- 第七期三月廿五日の目的の實現
- 第八期三月廿五日の目的の實現
- 第九期三月廿五日の目的の實現
- 第十期三月廿五日の目的の實現
- 第十一期三月廿五日の目的の實現
- 第十二期三月廿五日の目的の實現
- 第十三期三月廿五日の目的の實現
- 第十四期三月廿五日の目的の實現
- 第十五期三月廿五日の目的の實現
- 第十六期三月廿五日の目的の實現
- 第十七期三月廿五日の目的の實現
- 第十八期三月廿五日の目的の實現
- 第十九期三月廿五日の目的の實現
- 第二十期三月廿五日の目的の實現
- 第二十一期三月廿五日の目的の實現
- 第二十二期三月廿五日の目的の實現
- 第二十三期三月廿五日の目的の實現
- 第二十四期三月廿五日の目的の實現
- 第二十五期三月廿五日の目的の實現
- 第二十六期三月廿五日の目的の實現
- 第二十七期三月廿五日の目的の實現
- 第二十八期三月廿五日の目的の實現
- 第二十九期三月廿五日の目的の實現
- 第三十期三月廿五日の目的の實現
- 第三十一期三月廿五日の目的の實現
- 第三十二期三月廿五日の目的の實現
- 第三十三期三月廿五日の目的の實現
- 第三十四期三月廿五日の目的の實現
- 第三十五期三月廿五日の目的の實現
- 第三十六期三月廿五日の目的の實現
- 第三十七期三月廿五日の目的の實現
- 第三十八期三月廿五日の目的の實現
- 第三十九期三月廿五日の目的の實現
- 第四十期三月廿五日の目的の實現
- 第四十一期三月廿五日の目的の實現
- 第四十二期三月廿五日の目的の實現
- 第四十三期三月廿五日の目的の實現
- 第四十四期三月廿五日の目的の實現
- 第四十五期三月廿五日の目的の實現
- 第四十六期三月廿五日の目的の實現
- 第四十七期三月廿五日の目的の實現
- 第四十八期三月廿五日の目的の實現
- 第四十九期三月廿五日の目的の實現
- 第五十期三月廿五日の目的の實現

按の次計畫も既に於て、明治十四年から着手し、十六年完成の予定である、承つて進捗したものであります。

一、落成式、創立記念式、謝恩会、午餐会、友松会総会、温旧会、記念学芸会、記念音楽会、祝賀夜会と盛り沢山のことがおこなわれている。

二、祝賀夜会、友松会総会、温旧会、記念学芸会、記念音楽会、祝賀夜会と盛り沢山のことがおこなわれている。

三、落成式、創立記念式、謝恩会、午餐会、友松会総会、温旧会、記念学芸会、記念音楽会、祝賀夜会と盛り沢山のことがおこなわれている。

本校の次計畫も既に於て、明治十四年から着手し、十六年完成の予定である、承つて進捗したものであります。

一、落成式、創立記念式、謝恩会、午餐会、友松会総会、温旧会、記念学芸会、記念音楽会、祝賀夜会と盛り沢山のことがおこなわれている。

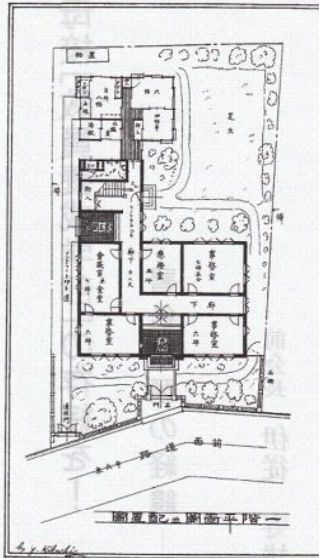
二、祝賀夜会、友松会総会、温旧会、記念学芸会、記念音楽会、祝賀夜会と盛り沢山のことがおこなわれている。

三、落成式、創立記念式、謝恩会、午餐会、友松会総会、温旧会、記念学芸会、記念音楽会、祝賀夜会と盛り沢山のことがおこなわれている。

五

三三

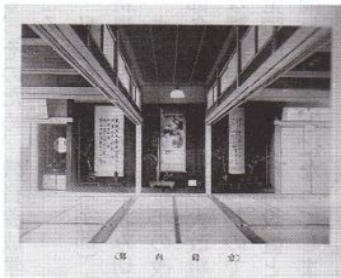




### 會館建築略圖

構造逆積		
一	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
二	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
三	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
四	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
五	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
六	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
七	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
八	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
九	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
十	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
十一	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
十二	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
十三	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
十四	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
十五	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
十六	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
十七	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
十八	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
十九	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
二十	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
二十一	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
二十二	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
二十三	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
二十四	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
二十五	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
二十六	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
二十七	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
二十八	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
二十九	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
三十	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
三十一	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
三十二	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
三十三	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
三十四	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
三十五	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
三十六	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
三十七	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
三十八	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
三十九	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
四十	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
四十一	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
四十二	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
四十三	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
四十四	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
四十五	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
四十六	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
四十七	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
四十八	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
四十九	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰
五十	本館内制作丁洋灰	本館外洋灰

用途	面積	合計
地上	26.00	26.00
地下	16.27	42.27
合計	42.27	42.27
敷地面積 (約)		128.71
敷地面積 (約)		128.71



(館内)



(祝賀会)

### 祝 辭

會館 平沼 亮 三

私にとりまして最大級の喜び、最も願しき事として居る此の友松會の會館落成式に列しまして、祝辭を述べざるを得ないことは、既に述べた通りであります。此の友松會は國土教育の責任に當つて居られる本縣男子師範學校卒業の先達方の集りであつて、當に吾々の感謝と敬意を捧げて居る所でありませう。

此の友松會を建設するに當つて、此の私の所有地を借用するとの相談がなされたので、喜んで提供した次第であります。實に此の敷地は私の母が昔々出征軍人迎渡の際、不慮の患に罹り其の記念園が建てられたので、この園を保留するに當つて居りましたが、次第となつて居りまして何か後援の公共事業に利用されることとなつて居りました。斯かる此の地に友松會が建設されたことは實に私の私個人にとりまして、土地の有志として、どうか今後此の會館を中心として益々友松會の活躍を希望し共に將來の發展を期す次第であります。聊か所感を述べて祝辭を致します。